

03 巻頭言

認知症サポーターキャラバンと地域共生

菅原 弘子 (すがわら・ひろこ)

特定非営利活動法人地域共生政策自治体連携機構 事務局長

記者、編集者を経て1997年に市町村長の会「福祉自治体ユニット」創設に伴い事務局長に就任。2001年に「福祉自治体ユニット」を基盤に自治体・産業界・有識者により設立されたNPO法人「地域ケア政策ネットワーク」の事務局長併任。2005年に厚生労働省「認知症サポーターキャラバン」開始に伴い実施事務局「全国キャラバン・メイト連絡会」の事務局長に就任(併任)。「福祉自治体ユニット」と「地域ケア政策ネットワーク」を一体化した「地域共生政策自治体連携機構」の発足に伴い2020年より現職。ダイヤ高齢社会研究財団評議員。

04 Dia Report

介護経験者が企業にとって貴重な人材になる可能性も

森 義博 (もり・よしひろ)

—「介護と就労に関する調査」結果より—

ダイヤ高齢社会研究財団 企画調査部長

一橋大学経済学部卒。1981年 明治生命(当時)入社。2001年から同グループの研究所で少子高齢化問題、介護保険制度等を研究後、2015年から当財団。著作は「人生100年時代の老後資金準備」(本誌通巻101号)、「データで確認する高齢者の家計の実態と意識」(日本FP協会『FPジャーナル』2020年8月号)等。

08 フォーカス高齢社会

Withコロナの中で・・・

野本 浩一 (のもと・こういち)

—新しい「結びつき」の始まり—

ダイヤさわやかネット 代表 ダイヤ・アクティブエイジング・アソシエーション(DAA) 運営委員長

東京大学法学部卒。1975年 三菱重工業(株)入社。名古屋機器製作所、冷熱事業本部、比国三菱重工業(株)勤務を経て、菱重コールドチェーン(株)勤務。2011年10月から引退生活開始。1986年日本ゲーム協会(JAGA)を立ち上げる。初代会長。1989年ジョークサロン(JS)発足時から参加。現在は学童、シニア向けにゲーム講習のボランティア活動を実施中。2019年6月より元気高齢者の活動グループDAA 運営委員長。

10 財団研究紹介

質の高い看取りを目指して

廣岡 佳代 (ひろおか・かよ)

ダイヤ高齢社会研究財団 研究部 博士研究員

2018年 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科博士後期課程修了。在宅ホスピス、研究所などの勤務を経て、現職に至る。慶応義塾大学大学院健康マネジメント研究科特任講師。緩和ケア、エンド・オブ・ライフケア、認知症ケアを専門分野として、エンド・オブ・ライフケアに関する研究や教育プログラムの開発・普及に携わっている。「在宅ケア、高齢者住まい・施設における新型コロナウイルス対応情報」(https://note.com/covid_19_kickout)では有志ボランティアとして海外ガイドラインの翻訳作業にも貢献した。

12 Dia Information

表紙撮影：秋林 正毅氏「宝徳寺の床もみじ」「秋の長瀬ライン下り」、土田 唯雄氏「秋の五色沼」、柳沢正男氏「秋の丸の内」

(いずれも2019年以前の撮影)